



2代目長崎県庁

写真に見る

115年前の長崎

日露戦争時代

姫野 順一

□ 2 □

明治39（1906）年ごろ撮影された外浦町（現・江戸町、旧県庁所在地）の2代目長崎県庁である。築後30年を経ている。県知事は、森崎の長崎奉行所西役所は幕府崩壊後広運学校として使われていたが、明治7（1874）年7月28日に木造2階建て洋館の初代県庁舎に建て替わった。しかしこの建物は23日後の風速60級の大台風により倒壊した。

2代目の県庁舎は、初代県庁の跡地に明治9（76）年12月29日に再建された。西南戦争が始まる2カ月前のことである。2代目県庁舎も木造瓦葺きの2階建て洋館であったが、4棟の寄せ棟に補強されている。大きさは建坪で82坪、1万6130円の工費を費やした。建物に目を向けると、観音開きの上げ下げ式洋風窓や、出陣カバリーの石の装飾、マントルピース用の煙突が印象的である。2階にはベランダが設けられ、洋風手すりや付けられている。庭は植木が配置された洋風庭園である。

明治初期を代表するこの町中の洋風建築は、しゃれたゲートのデザインと門灯の石油ランプとともに長崎市民の目を見張らせた。右に写る男性の和服と帽子や、左の人力車から明治30年代の雰囲気を感じられる。ゲート右の建物は門衛所である。

明治44（1911）年、山田七五郎の設計で完成した、ルネサンス様式3階建て、鉄骨石壁、銅板葺きの純英国式3代目県庁舎に建て替わる。

しやれた洋風デザイン

（長崎外国語大・新長崎学研究センター長）

週1回掲載します